

日 時：平成 29 年 11 月 28 日（火） 19:00～21:00

会 場：愛媛大学 社会連携推進機構 2 階 研修室

参加者：受講生 23 名（欠席 1 名）

スタッフ 愛媛大学社会連携支援部社会連携課 塩出  
松山市市民参画まちづくり課 村上、丹下

1. 講義①「ペットの防災を考える」 NPO法人えひめイヌ・ネコの会 代表 高岸 ちはり氏

- ・ 1991 年の雲仙普賢岳の噴火で災害弱者になった犬猫を見て、何かしたいという思いがこみ上げ、えひめイヌ・ネコの会を立ち上げた。
- ・ この時は犬猫に対するボランティアはほとんどなかったが、阪神淡路大震災でボランティアが少しずつ増え、ボランティア団体も多く作られた。
- ・ 有珠山噴火の際はすぐに帰宅できると思い、同行避難をしている人がほとんどいなかった。しかし、実際には何日も帰れず、多くのペットが餓死してしまった。
- ・ 新潟中越地震の頃もペット同行避難が広まっておらず、行政もペットを置いていくよう指示していた。
- ・ ヘリコプター救助の際、被災者がペットも連れて行こうとすると自衛隊に拒否されペットを置いていくことに。それが映画化され、その影響でペット同行避難に対して理解が広まるようになった。
- ・ 新潟中越沖地震ではそういったことを繰り返さないよう、新潟市と新潟県が協力し、ペットが入れる避難所を作ったことで、ペットの同行避難が新潟県で浸透した。
- ・ 熊本地震では同行避難をしても、また地震が起こり離れ離れになる事態が起き、愛護センターに多くの犬猫が収容された。熊本県は殺処分ゼロを掲げているため、収容されたままで減る様子がない。
- ・ 愛媛県と松山市もペット同行避難を推奨しているので、避難所で受け入れを拒否されても、強い意志をもってペットと同行避難することを主張してほしい。
- ・ まず人間が避難して落ち着いた後でペットを迎えに行こうとすると、二次災害などで迎えに行けないことがあるので、初めから同行避難してほしい。
- ・ 避難所では犬猫が苦手な人やアレルギーの人もあるので、飼い主はマナーを身につけておかなければならない。
- ・ 日ごろから、しつけ、不妊去勢手術、ペットの写真を用意（全体、アップなど 3 枚程度）、健康管理（ノミダニ駆除は最低限）、迷子札（できれば住所も）、ペットの健康面の分かるカルテ、ペットの非常持ち出し袋を心がけておく必要がある。
- ・ 特にフィラリア、予防注射、狂犬病ワクチンは飼い主の義務なので、災害に関係なくやっておくこと。
- ・ イヌを連れた防災訓練を平成 17 年から主催している。愛媛県、松山市、消防局、愛護センターなど、考えられる様々な団体を巻き込んで行っている。
- ・ 作戦はペット防災管理士養成講座を四国で初めて行い、多くのマスコミに取り上げられたことで、市民にペットの防災について知ってもらうことができた。
- ・ 愛媛県災害時動物救護活動ガイドラインがあるが、災害時にこの通り運営できるよう、ペット防災管理士を作って市民の方などと私たちからつなごうとしている。
- ・ えひめイヌ・ネコの会のホームページの活動報告にペットの防災が載っているので参考にしてほしい。



## 2. 講義②ワークショップ「ペットと防災について考える」 愛媛大学 前田 眞先生

### ①グループ名「もみじ」

#### 【平常時】

- ・餌の量や種類の確認、しつけをしておく。
- ・ペット防災管理士などペットの担当者や避難所でペットをどうするか決めておく。
- ・ペットの飼い主や苦手な人との交流会を行い、日ごろから意見交換することで、同行避難の理解を広めておく。(運営者)

#### 【発災時】

- ・ペット同伴の避難所の場所確認 ・飼い主会を作り、避難場所の清掃や散歩のルール等を決める。
- ・運営側も全体にペット避難所などの場所を伝え、アレルギーや飼い主以外の人に確認しておく。

#### 【避難時】

- ・飼い主同士の助け合い ・ボランティアの呼び合い
- ・ペットが苦手な人のために、他の避難所案内やケージ対応をする。



### ②グループ名「大和」

#### 【飼い主側】

- ・日ごろからペットをケージの生活に慣れさせておく。 ・ケージ内で生活させておく。

#### 【運営側】

- ・ペットが避難所に来るという意識をもって運営する。 ・ペットの拒否体制を作らない。
- ・発災時はペットと被災者を別の部屋で生活させる。



### ③グループ名「シェルター」

#### 【平常時】

- ・しつけ ・避難経路の確認 (人間、ペットともに)
- ・近所づきあいを深める。 ・避難用品の確認

#### 【発災時】

- ・安全確保 (自助からのペットの安全確認)
- ・自分とペットのケア ・ペットの非常用品の確認

#### 【避難時】

- ・飼い主とペットの安全管理 ・物資を自分で確認しておく。



### ④グループ名「チーム犬」

#### 【平常時】

- ・避難所の準備 (受け入れ態勢、話し合いなど) ・ペットの訓練、しつけ
- ・ペットの非常袋の事前準備

#### 【発災時】

- ・避難者の収容場所の理解、把握 ・同行避難の理解の周知 ・ペットを種類別に収容

#### 【避難時】

- ・ルールに沿ってペットを世話する。 ・ペットアレルギーなどの住民の把握
- ・話し合いで決定したことを徹底する。

(前田先生)

飼い主も運営者も準備をしておくことが大切。今回の話し合ったことで、実際に災害が発生した時に何をしなければならないか少し理解できたと思う。災害時は多様な人が多様な場所で生活することになるので、ペットの避難を前提とするなど、他者の理解を深めていくが必要になる。

日本のセーフティーネットは自分と違う人を排除するものが多いが、取り込むセーフティーネットを作っていくように変わっていくと思う。

今回話し合った内容を今回で終わらせず、地域での話し合いにもつなげて行ってほしい。

### 3. アンケート記入・終了

次回について

日時：12月5日（火）19:00～21:00

内容：避難所運営ゲーム「HUG」（松山市危機管理課）